

## 絆 きずな

岡崎聖書バプテスト教会 牧師 上田 晃

『絆』（きずな） 広辞苑では牛、馬を繋ぎとめる綱つなぎとありますが、むしろ人と人を結びつけている強い関係を、あらわす言葉として、この絆という言葉が一般的には使用されております。親子の絆、夫婦の絆、師弟の絆などです。ところが、昨今、本来あるべき、人どうしの関係が希薄きはくになり、この絆が失われようとしています。

本来は信じ合える夫婦が、或いは親子が、友人が、お互いが自分本位、自己中心、自分勝手な生き方をするので、信頼、尊敬、真愛が失われ、絆が切れる危機を迎えています。

お互いが信頼を裏切り、偽りいつわと、だましごとが横行しています。親は自分の子を信頼せず、子は親を尊敬出来ず、親子の絆は切れかけています。教師は生徒を指導くんとう薫陶することを怠りおこた、生徒は教師に反抗し、信頼を失います。そして、師弟関係はなくなるのです。夫は妻を理解しようとはせず、妻は夫に背き、夫は妻を裏切ります。家庭崩壊ほうかいが始まっています。そして、簡単に夫婦の絆を切ってしまう。今多くの人は、絆で結ばれている事をうっとうしいと思っています。しかし、それは本当に不幸なことと言わねばなりません。なぜなら、絆は、愛、信頼、尊敬、責任、義務といえる様々な約束事の法則から成り立っているからです。絆を疎んじるうとことは、生きることを疎んじるうとことに繋がります。

聖書は、「あなたの隣人を真愛せよ」と教えています。真愛は人を許容し、罪をゆるします。人同士を結ぶ大切な帯です。この真愛はキリストによって啓示されている新しい愛に基づく絆なのです。

最も根元的な絆は、神と人との絆でした。愛と信頼の絆でした。はじめの人は神と強いのちの絆によって結ばれておりました。そして、人は神によって創造され、強いのちの絆で結ばれていたのです。

しかし、罪が入って、神と人との絆が切れたとき、愛といのちの力も失われたのです。結果、はじめの人同士の関係も、責め合う、裁き会う、責任を転嫁する状態になり、妬みや、争い、高ぶり、僻みひが、殺意へとゆがんでいきました。そして、神との絆を切ってしまったのです。実に、絆が死語になったのです。

しかし、今から二千年前、キリストが世に来られて、自ら十字架につき、神と人との仲立ち、人と人との仲立ちとなられ、その絆を回復されたのです。絆を壊す力である罪をキリストは十字架によって贖あがなわれたからです。キリストの十字架こそ、あなたが心から願って居られるはずの絆を回復する力と鍵があります。今あなたに必要なのは、いのちと愛の絆の回復ではないでしょうか。